

令和6年度 江戸川区立一之江小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	◎進んで学習する子 ○思いやりのある子 ○明るく元気な子			目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	①・安全で美しい学校 ・子供を大事にする学校 ・学ぶ喜びを知る学校 ・開かれた学校 ②・主体的に学び正しく判断し行動できる子 ・相手の立場や気持ちを考えて行動できる子 ・健康で活力のある生活を送ることができる子 ③・温かさで厳しさをもった教師 ・豊かな感性を持った教師 ・専門性をもった教師
前年度までの本校の現状	成果	＜成果＞「一之江学び方スタンダード」の徹底を重点目標として全校体制で取り組み、挨拶あふれる学校へ着実に成果を上げた。校内研究ではタブレットの活用を研究課題として取り組み、各教科のねらいをよりよく達成するための授業改善に向けて研鑽に努めた。			課題 ＜課題＞一之江タイムの習熟の時間を活用し、基本的な計算の力は伸びつつある。一方で、思考力・判断力の育成については課題が残っている。江戸川区教育委員会の教育課題推進校の指定を受けながらGIGAスクールの時代に即した指導と評価の一体化をテーマに全校体制で授業改善に努めていく。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」 自己（学校）評価(A～D)		「中間」 学校関係者評価(A～D)		「年度末」 自己（学校）評価（A～D）		「年度末」 学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた 改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の 向上	＜学力の向上＞ ・基礎的・基本的な学力の力の向上を目指す。そのために、全学級で「学び方スタンダード」に基づいた指導を徹底し学びの環境を整える。また、習熟の時間の確保に務める。 ・授業では、毎時間、目標提示・振り返りの実施を心がける。 ・G I G Aスクール構想に則った一人1 台端末の効果的な活用及び授業改善（個別的な視点、協働的な視点）を図る。 ・毎日、課題提示（学年×10 分＋10 分）を行い、家庭と連携しながら取り組み、学びの習慣化を促進する。 ・「基礎・基本の定着」をテーマに校内研究に取り組む。全学年で研究授業を実施し、外部講師の指導の下、授業改善を進める。	・「一之江学び方スタンダード」を活用した授業規律 ・習熟の時間の確保 ・ICTを活用した授業 ・一人1 台端末を活用した授業 ・毎日の宿題と提出物の確認 ・「指導と評価の一体化」をテーマとした校内研究 ・ハンドサイン等を活用した学び合いの授業の充実	・「基礎・基本の定着」 ・「学習に意欲的」 ・「指導体制の工夫」 ・「家庭学習の習慣化」 肯定的意見80%以上	A	A	A	＜学力の向上＞ ・学び方スタンダードの取組を1 学期当初から全校体制で実施し、児童も教員も毎月振り返りの機会をとった。 ・毎日、課題を提示し、翌日担任が確実に確認。 ・授業の中でタブレットを活用した学びを工夫して実施。 ・東京都の研究指定を受けICT活用に焦点を当てた研究を推進 ・評価指標の肯定的意見は85～90%であった。	A	・今後も基礎・基本を大切にしてもらいたい。 ・家庭学習は大切と考える。 ・家庭学習の習慣化が図られている。 ・全国テスト等で年々学力向上の結果が出ていて素晴らしい。 ・具体的なアクションが見えていてよい。 ・バス通学により一之江タイムが実施できなくなったことは残念。	A	＜学力の向上＞ ・学び方スタンダードの取組を年間を通して実施した。 ・日常的にICTを効果的に活用した授業が定着した。 ・都教育委員会の情報教育研究校として情報活用能力の育成に取り組んだ。 ・学力調査等で学力向上の成果が経年で現れている。 ・評価指標の肯定的意見は85%～90%であった。	A	・児童が着々と力をつけている様子が伺え素晴らしい。 ・宿題提出後のチェックを確実に行う指導はとても良い。 ・ICTを効果的に活用した授業はとても大切に続行けてほしい。 ・落ち着いて学んでいる様子を見ることができた。先生方の指導の成果だと思う。 ・さらなる向上の余地は家庭学習にあると考えている。	・「一之江小学び方スタンダード」のいっそうの徹底 ・習熟の時間の確保 ・ICTを効果的に活用した授業改善 ・毎日の宿題 ・校内研究（東京都教育委員会情報活用能力育成研究校）の推進
	＜読書科の更なる充実＞ ・年間を通して、本に親しむ機会を確保するとともに、図書室の環境整備や、読書紹介カードを用いた本の相互紹介等を通して、読者への興味・関心を高める取組を実施する。 ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実を図る。そのために、教科や総合的な学習の時間、学習発表会等と関連付けた問題解決学習の充実を図る。	・朝読書の実施 ・読書紹介カードの作成・活用 ・ボランティアの協力による学校図書室の環境整備 ・「本読み隊」による読み聞かせ ・探究的な活動での図書等の活用 ・学習発表会での発表	・「積極的に取り組んでいる」 ・「環境が整っている」 ・「進んで本を読んでいる」 肯定的意見70%以上	B	B	B	＜読書科の更なる充実＞ ・図書室のバーコード化を進めた。 ・松江図書館の協力を得て図書室整備を定期的に実施した。 ・学期に1 回読書週間を設け、学校全体でおすすめの本を紹介する取組を実施した。 ・学習発表会では図書等を活用した調べ学習を通してまとめたものを保護者に発表を行った。 ・評価指標の肯定的意見は70%～80%であった。	B	・保護者の意識が読書に向くのは、今の時代なかなか難しい。 ・読書は脳の発達にも必要。 ・ICT化の効果を生かしてほしい。 ・映像漬けから読書につなげてほしい ・活字離れが進んでいると感じる。 ・家庭での姿勢が大切。	B	＜読書科の更なる充実＞ ・図書室のバーコード化が完了し児童が本に触れやすくなった。 ・松江図書館の協力を得て図書室整備が進んだ。 ・毎学期実施する読書週間では、保護者の協力を得られるよう取組を工夫した。 ・保護者ボランティアの「本読み隊」との協力体制を構築した。 ・学校の取組への肯定的意見は80%を超えた。	B	・バーコード化により、児童が本を借りやすい環境を整えていただいたことに感謝する。 ・保護者の理解の差もあると思うが、学校はよく頑張っていると思うので、今後も積極的に取組を進めてほしい。 ・家庭での取組を頑張るようにしたい。	・朝読書の充実 ・図書室の環境整備 ・バーコード化した図書の活用 ・読書週間の実施 ・読書紹介の取組 ・保護者を巻き込んだ読書の推進 ・調べ学習での活用
体力の 向上	＜運動意欲や基礎体力の向上＞ ・体力向上の視点に立った体育科の授業改善を図る。そのために、体力テストを活用し、個々の目標設定と振り返りを行う。 ・短縄・長縄や持久走等の取組を通して体力の向上への意識を高める。	・運動的行事の目標設定と振り返り ・「体力テスト」を活用した前回の自分を超える取組	・「体力向上に向けた取組」 肯定的意見80%以上 ・「体力テスト」 都平均に近付ける	B	A	B	＜運動意欲や基礎体力の向上＞ ・体力テストを前年度の自分の記録と比較して目標を定め、自己の向上を目指して取り組んだ。 ・2 学期以降は、縄跳びと持久走の取組を実施予定。 ・評価指標の肯定的意見は70%～80%であった。	B	・仮校舎で工夫して進めていると思う。 ・先生方が工夫して取り組んでいると思う。 ・体力テストの目標設定は続けてほしい。 ・コロナ後の在り方を工夫してほしい。	A	＜運動意欲や基礎体力の向上＞ ・児童に目標を立てさせ取組を進めた。 ・長縄や短縄、持久走の取組を通し運動への意欲を喚起した。 ・体力テストで多くの学年で都や全国を超えた。 。	A	・児童が縄跳びを楽しそうにしており、うれしく思った。 ・長縄を孫が楽しんでいる。 ・規則正しい生活リズムを整える取組を今後も大事にしてほしい。	・体育授業における運動量の確保 ・オリパラレガシー校の取組の充実 ・持久走の取組 ・短縄の全校取組
共生社会の 実現に向けた 教育の推進	＜特別支援教育の推進＞ ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	・色覚チョークの活用 ・児童の特性を留意した教室環境の整備 ・毎月の特別支援委員会の実施 ・スクールカウンセラーによる児童、保護者相談 ・教育委員会、児童相談所等、関係機関との連携 ・オリパラレガシー教育の推進 ・パラスポーツへの理解促進	・「学校が楽しい」 ・「健康・安全に配慮した教育」 肯定的意見80%以上	A	A	A	＜特別支援教育の推進＞ ・ユニバーサルデザインに配慮した教育環境の充実。 ・東京都教育委員会のオリンピック・パラリンピックレガシー推進校としての取組を継続して推進した。 ・巡回指導教員と連携を図り支援の必要な児童への対応を確実に実施した。 ・評価指標の肯定的意見は80%であった。	A	・児童への配慮がされていると感じる。 ・今後も対応が必要な児童等への迅速な対応をお願いしたい。 ・パラスポーツへの興味付けは良いと思う。	A	＜特別支援教育の推進＞ ・特別支援学校と連携して複籍交流を実施した。 ・SC、SSWと連携の上、保護者の協力を得ながら不登校の児童への対応を密に行った。 ・毎月、学校サポート会議を実施し、情報交換を進めた。 ・学校が楽しいの評価指標の肯定的意見は85%であった。	A	・安全への配慮は、最大限の努力をいただいていると感じる。 ・給食試食会に参加して安全への配慮が徹底されていることがよく分かった。 ・校舎建て替えに伴いバス通学が始まり心配をしたが、児童がこれまでと変わらず元気に学校生活をしていて、とても安心した。	・組織的対応のいっそうの充実 ・巡回教員、保護者との連携促進。 ・SC、SSW、児童相談所との連携促進 ・学校サポート会議の充実

不登校・いじめ対応の充実	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・「一之江学び方スタンダード」を活用した授業規律の徹底 ・不登校対策の実施・充実 ・ふれあい月間では担任と児童が直接面談をする機会を設け、教育相談の充実を図る。 ・hupaer-QUの活用 ・生活習慣改善を目指し、アンケート等を活用した家庭との連携を推進していく。 ・給食指導を中心に食に対する理解や栄養バランスについて考えるなど食育の一層の充実を図る ・GiGAスクールの時代に即した情報モラル教育の充実を図る ・登校班指導を通して安全への意識を高める。 ・健康診断等と関連付けて健康教育の充実を図る。	・「一之江学び方スタンダード」を活用した授業規律 ・毎週の連絡会 ・毎月のいじめ対策委員会 ・スクールカウンセラーによる児童、保護者相談 ・教育委員会、児童相談所等、関係機関との連携 ・挨拶指導の徹底 ・担任と児童との個別面談の実施 ・教室の迎え入れ ・SC,SSWの活用 ・早寝・早起き・朝ごはん週間の実施 ・食育の授業、「給食室からのお手紙」の毎回発行 ・情報モラル教育の推進 ・児童主体による、いじめ防止の取組 ・養護教諭による保健指導の実施	・「学校の決まりを守る」 ・「学習規律の定着」 ・「進んで挨拶」 ・「学校が楽しい」 ・「いじめに対する適切な指導」 ・「先生に相談しやすい」 ・「生活習慣の向上」 ・「健康・安全に配慮した教育」 肯定的意見80%以上	B	B	B	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・学び方スタンダードの取組みを1学期当初から全校体制で実施し、学習規律の向上に結び付けてきた。 ・挨拶については児童の意識の向上が見られ、気持ちのよい挨拶ができる子供が増えてきた。 ・毎朝、担任が児童一人ひとりに声をかけ、様子の把握に努め一日の指導に生かした。 ・早寝・早起き・朝ごはんの取組を毎学期取り組み生活習慣の向上に努めた。 ・給食では、郷土料理や世界の食事、児童考案の献立など工夫するなど、食に関する興味関心が深まった。 ・毎月のいじめ対策委員会には、スクールカウンセラーも参加し、情報共有と解決策について検討した。 ・SSWとの連携を密に行った。 ・評価指標の肯定的意見は60%～80%であった。	B	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・学び方スタンダードの取組を年間を通して実施し、学習規律が図れる学校となった。 ・挨拶を声を掛け合って行い、気持ちのよい挨拶ができる子供が増えた。 ・毎朝、担任が児童を教室で迎え声をかける取組を年間を通して実施できた。 ・早寝・早起き・朝ごはんの取組を毎学期実施し生活習慣の向上に努めた。 ・給食では、郷土料理や世界の食事、児童考案の献立など工夫するなど、食に関する興味関心がいっそう深まった。 ・毎月のいじめ対策委員会には、スクールカウンセラーも参加し、情報共有と解決策について検討した。 ・SSWとの連携を密に行った。 ・評価指標の肯定的意見は60～80%であった。	B	・学校が離れたが、多くの保護者の方が来校されていた事が素晴らしいと思う。 ・先生方が協力し合って、笑顔で児童と接していっしょなことは保護者にも伝わっている。	・「一之江学び方スタンダード」のいっそうの徹底 ・挨拶指導のいっそうの徹底 ・教室の迎え入れの継続 ・情報モラル教育の推進 ・GiGAワークブックとうきょうの活用 ・縦割り班活動の充実 ・早寝早起き朝ご飯週間の継続 ・SDGsを視点に入れた食育の充実		
	学校（園）開かれた地域社会の実現	<自校の取組の積極的な発信> ・学校ホームページの充実、連絡アプリを活用した迅速な情報発信及び出欠席の電子化、各種たよりの充実を推進する。 ・PTA との情報交換を密に行うとともに、見守り活動等、様々な視点から児童を支えるための連携を深める。 ・学校公開の実施と意見の聴取 <学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価とするため、年2回、学校評価を実施し、事業改善改善に努めるとともに、学校の取組の理解促進を図る。 ・各行事実施後には、ICTを効果的活用した意見収集を行い、意見の集約と改善に努める。	・ホームページの随時更新 ・アプリによる迅速な情報提供 ・出欠席の電子化 ・配布物の電子化の促進 ・オンライン・アンケートの実施と速やかな改善策の提示 ・PTAとの連携、見守り運動の実施	・「ホームページ、メール等の発信」 ・「意見・要望を生かしている」 ・「行事、保護者会等の参加」 それぞれ肯定的意見80%以上	A	A	A	<自校の取組の積極的な発信> ・学校ホームページの随時更新、連絡アプリを活用した迅速な情報発信及び出欠席の電子化、各種たよりの電子化等充実を進めた。 ・学校公開には児童数の1.5倍もの保護者の参観があった。 ・評価指標の肯定的意見は80%であった。 <学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価とするため、7月に1回目の学校評価を実施した。 ・ICTを活用した保護者アンケートを行事ごとに実施し、意見集約を行い改善につなげた。	A	・小学校では紙の必要性もあるのでデジタルとの特性の違いに基づいて指導をしてもらいたい。 ・地域やPTAと連携して取組が進められていてよい。 ・本校は伝統的に地域と連携できている。 ・学校ホームページを上手に活用して情報発信ができています。いつでも見れてよい。	A	<自校の取組の積極的な発信> ・学校ホームページの随時更新、連絡アプリを活用した迅速な情報発信及び出欠席の電子化、各種たよりの電子化等が定着してきた。 ・学校公開には児童数以上の保護者の参観があった。 ・評価指標の肯定的意見は80%～90%であった。 <学校関係者評価の充実> ・年2回の学校関係者評価では、学校の取組の理解に主眼を置いて実施した。 ・ICTを活用した保護者アンケートを行事ごとに実施し、意見集約を行い改善につなげた。	A	・ホームページにパスワード付きで学年のページが加わるなど工夫されている。 ・開かれた学校を目指しているためか、本日の公開の人数(保護者)が多かったと思う。 ・ホームページやPTAの組織運営など、いろいろな面で工夫し、努力されていると思った。 ・引き続きの情報発信宜しくお願いします。
教育の展開	<人と人との関わりを重視した教育> ・異学年による登校班や縦割り班活動を実施するとともに、6年生と1年生の関わり等を大切にした教育を実施する。 - また、児童会による児童主体の取組や、アサーション等の手法を取り入れ、人とよりよく関わるためのすべを身に付ける教育についても実施していく。	・登校班活動 ・縦割り班活動 ・6年生と1年生の関わり	・「学校が楽しい」 肯定的意見80%以上	A	A	A	<人と人との関わりを重視した教育> ・登校班、縦割り班を通して、異学年の交流と関係の深まりにつなげることができた。 ・6年生と1年生の関わりは朝のお世話、掃除の手伝い、運動会の感想の交換など工夫して実施した。 ・評価指標の肯定的意見は80%であった。	A	・学校が楽しいと言っている子供が多いのが良い。 ・引き続き思いやりのある子の育成に努めてほしい。 ・きめ細かく対応できていると感じる。 ・仮校舎での難しい対応であるが頑張ってほしい。	A	<人と人との関わりを重視した教育> ・バス通学時も含めて、登校班、縦割り班等、異学年が仲良く関われる学校となった。 ・評価指標の肯定的意見は85%であった。	A	・バス通学が始まり心配をしたが、児童がこれまでと変わらず元気に学校生活をしていて、とても安心した。 ・先生方のこの一年間の取組に感謝したい。	・児童の情報活用能力の育成 ・防災教育の取組の充実 ・オリパラレガシーの取組の充実 ・登校班活動の充実 ・縦割り班活動の充実 ・スクールバスを活用した安全な登下校の実施